

冊 図書館だより 11月

◆◆◆読書週間は本の読みどき！！◆◆◆



読書週間企画号第2弾！今号は、Aコース担任の先生方からの推薦図書をご紹介します。思い出の本あり、お気に入り度何度も読んでいる本もありと、バラエティに富んでいます。あまりにも種類豊富なので、本校図書館に置いていない本もたくさんありますね。図書館でも大至急購入しなければ…。さて、10/27～11/9までの読書週間ですが、11/7の昼休みには図書委員会でも「ブックカバー手作り講座」というイベントを開きました。誌面の後半にその模様もあわせて掲載しています。皆さんがいろいろな本と出会って、読書の秋を楽しめるといいですね。

Aコース主任 櫻村 敦雄

『犬はあなたをこう見ている』

ジョン・ブラッドショー著 河出書房新社



一か月ほど前のことになるが、我が家に一匹の仔犬を迎え入れた。イギリスが誇る、獵犬の傑作と呼ばれるポインター種である。私自身、半世紀となる人生の中で、犬も含めたペットと呼ばれる類から、昆虫やザリガニなどの野生の生き物まで、様々な生き物を育ててきた。その中でも、犬は特別な存在だ。犬は家族。私たちは犬を育て、犬は私たちを育ててくれる。同じく、犬を愛して止まない人々に読んでもらいたい必携の書である。

Aコース主任 萬場 努

『基礎から学ぶ！メンタルトレーニング』

高妻容一 著 ベースボールマガジン社

私が大学生時代に大変お世話になった方で、日本のスポーツ界にメンタルトレーニングという文化を持ち込んできた一人です。現在は当たり前になっている「ポジティブシンキング」など、今の高校生から実践してもらおうと少し人生が変わっていくかもしれないと思い、推薦してみました。是非ご一読を！！



3-5担任 本井 睦也

『人間嫌いの言い分』

長山靖生著 光文社



人と合わせるのが苦手な人、自分をごまかすに真の「自分の人生」を歩みたい人へオススメの書。ここでいう「人間」とは、「みんな」とか「世間」といった個々の顔を持たない漠然としたあいまいな存在である。人とつるむ前に、まず「自分」という確固とした存在を持つことの大切さを説いている。

3-6担任 佐藤 圭市

『恋文の技術』

森見登美彦著 ポプラ社



意中のあの娘にラブレターを書く修行に励む主人公が書いた、また、そんな主人公に向けていろいろな人物から書かれた「手紙」のやりとりだけで物語が進みます。

実は前にも紹介しましたが、ぜひ読んでもらいたいのでもう一度紹介。阿呆な主人公に笑いが止まらず、たまにキュンとなる素敵な本です。

3-8担任 森田 紘史

『哲学的な何か、あと科学とか』 飲茶著 二見書房



哲学は恐ろしいものです。なぜならば、あまりにも面白すぎてハマってしまうからです。その面白さは、まさに中毒的です。難しい専門用語を使わない、哲学入門書。「哲学って何?」、「哲学って難しそう・・・」と考えている人へ、特に進めたい一冊です。

3-9担任 大河 愛

『風が強く吹いている』 三浦しをん著 新潮社



箱根駅伝を走りたい—そんな灰二の想いが、天才ランナー走と出会って動き出す。「駅伝」とは？走るって何？10人の個性あふれるメンバーが、長距離を走ることや生きることに夢中で突き進む。自分の限界に挑戦して、ゴールを目指して襷を繋ぐことで、仲間と繋がっていく。様々なことを考えさせられる本です。

2-5担任 福地 雄太

『あらしのよるに』 木村裕一著 小学館

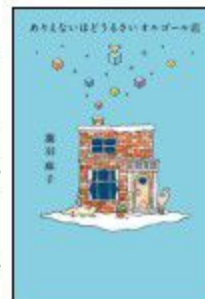


30歳を過ぎ、最近、本・マンガ・ゲームや遊びなど「学生時代にハマったものにもう一度ハマってみる」ことにしています。この本はその中の一冊。当時は感動作として映画化された、絵本が原作の作品です。今読み返すと、「個々は違えど、互いを理解する・愛する・助け合おうとする」現代の人々に必要な心が詰まっている作品なのではないかと感じます。

2-6担任 和田 柚実香

『ありえないほどうるさいオルゴール店』

瀧羽麻子著 幻冬舎



この本はとある町にあるオルゴール店のお話です。7話の短編集になっており、このお店に訪れた人に適した音楽を不思議な店員が提供してくれます。言葉はほとんどかわしてないはずなのに。。。あなたの心に響くお話はどれでしょうか。探してみてください。私は「おそろい」が好きです。

2-7担任 眞崎 翔大

『読めますか？小学校で習った漢字』

守 誠著 SMILES

小学校で習う漢字が使われていても読み方が難しいなど感じたことがあるでしょうか。この本にはそのような漢字が多数収録されています。意外と読めない驚きと、知識を増やしていく喜びを実感できると思います。語彙を豊かに、人生を豊かにしていく一助となれば幸いです。



2-8担任 高橋 侑暉

『カラフル』

森 絵都著 文藝春秋

先日、本校の図書館に行く機会があり、懐かしい本を見つけたので推薦します。学生時代、この本と出会い、読んでいくうちに生きることの難しさや、尊さ、困難にぶつかってもそれに立ち向かっていくことの大切さを教えてもらったと思います。高校生の君たちにも是非読んでもらいたいです。



1-5担任 後藤 朋幸

『銀翼のイカロス』

池井戸潤著 文藝春秋

半沢直樹シリーズの第4弾です。これまでの、銀行やホテル再建など不可能なことにも挑戦する姿は共感が持てました。今回は、大手航空会社の再建のために、大物政治家や銀行内部の敵、今まで以上に困難な状況になりながらも、半沢を信じる周囲の力を借りて立ち向かう姿が書かれています。是非、挑戦することを忘れないでほしいです。



1-6担任 水本 光樹

『友だち幻想～人と人のつながりを考える』

菅野仁著 筑摩書房

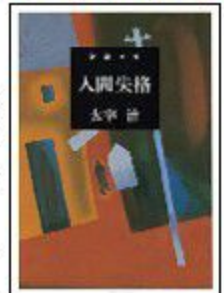
中高生の時、友人の反応ばかりを気にして行動し、悩むことが多かったように思う。「他人(よこ)を見ては歩幅を合わせるだけで『楽しい自分』を演じてた」。この歌詞に出会い、今までの生き方は窮屈だと気づいた。わずらわしさもある友人関係。全部は無理だけど、今よりも少しは力を抜いていい所があるかもしれない。



1-7担任 近嵐 裕喜

『人間失格』 太宰治著 新潮社

人間の奥底にある本質や、人間の生き方の本質を知ることができる小説です。太宰治という人間の性格も相まって本当は自分もこんな人間になってしまうのではないかというちょっとした恐怖にも襲われ、様々な感情を引き出してくれるのも魅力です。多少難しい言葉もありますが、一度チャレンジして読んでみて下さい。



1-8担任 小田倉 佳弘

『ゴールデンボーイ恐怖の四季 春夏編』

スティーブ・キング著 新潮社

ゴールデンボーイ恐怖の四季に春の物語として取められている170ページほどの中編小説である。この小説は「ショーシャンクの空に」という題名で実写映画化されており、両方を見て違いを楽しむのもおもしろいだろう。無実の罪で投獄され、それでも希望を捨てなかった男の感動の物語である。

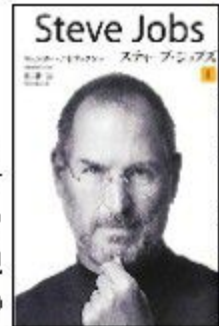


1-9担任 松原 聖馬

『スティーブ・ジョブズ』

ウォルター・アイザックソン著 講談社

スマートフォンが日本でも主流となり、iPhoneや、タブレット、など多くのデバイスが増えてきています。私も、iPhone、iPad、パソコンもすべてMacユーザーです。その生みの親であるスティーブ・ジョブズはどのように、この流れを生み、製品を出したのかに興味はありますか？



1-10担任 寺内 卓也

『ブラバン』

津原泰水著 バジリコ

本を読み終えた後も、金管と木管の違い、吹奏楽とブラスバンドの違いを説明できません。コントラバスを弦バスということは覚えました。専門外のジャンルでも、読み進めるうちに引き込まれていくのが読書の楽しさの1つです。

私と同年代の主人公が、青春を懐かしみつつも味気ない日常を送っていることが現実的で興味深いです。



図書委員会企画イベント



「不器用でも出来ますか？」と自ら心配してましたが、男子も上手に出来ました！



11/7の昼休みに、図書委員会主催イベント【ブックカバー手作り講座】が開かれました。委員会スタッフ5名を含む17名の参加となり、それぞれが自分好みの“世界にひとつだけのオリジナルブックカバー”を作りしました。終始、和やかで楽しいひと時でした。

↓最後は自作のブックカバーを手にパチリ☆



ホッと一息 本と一息

2018・第72回 読書週間 10/27～11/9

今月号も盛り沢山の内容でしたが、いかがでしたか？ 次回は、Aコース副担任の先生方とBコース担任、副担任の先生方の推薦図書紹介文を掲載予定です。なるべく早くお届けしますのでお楽しみに！

COMING SOON